

# “わ”情報ざらり

TEL(078)743-8101

FAX(078)743-8103

神戸市シルバーカレッジ 社会還元センター

グループ“わ”情報誌編集部

## スーパースター・トーラスに乗船して

仲田泉子（福祉4期）

猛烈な残暑の続く神戸港を後にして、9月1日午後9時に予定通り福岡へ向かって出港しました。船内はしっかりした絨毯が敷きつめられ、各通路には小さな絵が飾られた美しい内装で、客室は清潔感のあふれたきれいな二人部屋でした。

船内生活は、毎夕客室に届けられる船内新聞で催物のスケジュール・各種施設のオープン時間・夕食時のドレスコード等が記載されていて一日の計画に大いに役立ちます。その他、ランドリー・ビューティサロン・ポートトーク（寄港地案内）カジノ・エンターテイメント・子供用施設・写真・郵便・医療サービス等々完備されています。

最後に私の体験した楽しいイベントを紹介しましょう。航海中に行われるショータイムでは体格の良い美人揃いのスタークルーズダンサーによる脚線美の見事に目をみはり、歌手のシモンズさんの日本語もまじえた歌声に聞き惚れ、ガルシアさんの器用な指先によるマジックに嘆声をあげ、その次は生バンドによる私達のダンスが始まります。しっかりおしゃれをした文字どおりの老若男女（一般のお客様もスタッフも入るので若い方達もおられます）が入り乱れてのステップでスローテンポのワルツからゴーゴードダンスのビートのきいたテンポまで、それはそれは楽しく踊りました。忘れていましたがそのイベントの前に韓国語のお勉強にも参加して、一斉に声をはりあげて“アンニョンハセヨ”この一言で、おは

よう・こんにちは・こんばんは・が済みます。韓国ではごはんの茶碗を持ち上げては失礼だそうです。スプーンでテーブルに置いたまま頂いて、お箸はおかずを頂くのに使うだけだと聞いて真似を試みましたが習慣は恐ろしいもので食べにくく感じました。

このような連日のスケジュールに四泊五日では充分とは言えませんでした。もう一度ゆったりとクルーズを楽しみたいと願っています。



スーパースター・トーラスのキャプテンと一緒に

## 「スーパースター・トールス号」に乗船して

陸井(くがい) 豊一(国際3期)

世界3位の客船会社スター・クルーズ社(本社ルーズ)が、神戸港を一拠点として日本での運航を始めたのが3月10日であった。

今回9月の敬老月間の催しとして“わ”で活躍の方々100組を2度に別けて招待され、私は1回目の50組の1員として参加させて頂いた。

神戸発着の4泊5日のコース、寄港地は福岡・釜山(韓国)・別府の3港で9月1日21時出港、9月5日11時帰港のスケジュールでした。

最初“わ”からお誘いを受けたのは、キャビン・アテンダントはIS(イサイド・スタワード)とのこと、船のデッキプランを見るとデッキ3・4の船中央部分で海洋が見えない部屋でこれは仕方ないと諦めていた。神戸港ポートターミナルで受付を済ませ乗船、キャビンに行ってみるとデッキ4のOS(アウトサイド・スタワード)の角窓付きルーム。ツイペットにシャワー・トイレ室、ソファに電気湯沸かし器、韓国製の500mm入り飲料水ペットボトル4本並のビジュ初めでは考えられないような設備や待遇でした。トールス号の乗客定員は960名。乗客は夏休みも終わったせいか150名位と聞いた。それでISからOSへキャビンを変更してくれたのでは。

乗組員数は400名で上級船員は船長をはじめスイス人が占め、中級船員はアジア系が増えてくる。この会社がルーズの客船会社を傘下に置いて大きくなった関係もあり北欧系が多いのは頷ける。客に比べて乗務員が多いのは、レストラン・バー・カフェ・ショップなどに多くの男女を雇っているからで、アジアの若い・安い労働力が頼られている。日本・中国・韓国につきフィリピン人が多かった。オーストラリアの女性もいた。ところで北欧のトイレと同じく男子用小便の便器が高いので聞いてみると、この船はフィリピンで建造されたのだと言う。

何といたっても船中の楽しみは大きく分けて一つは食事や喫茶のこと。

この船では朝・昼・夜の三食とモーニングティーやアフタヌーンティーも全て頂ける。自分の好みを出したければ、別に選択して手ごろに楽しめる。

二つめはOP(オプションツアー)で寄港地の観光に行くことではないだろうか。

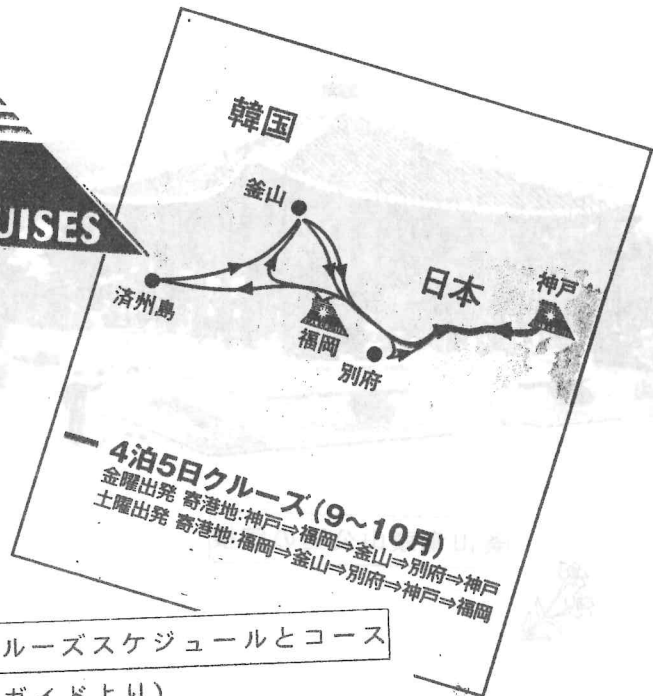
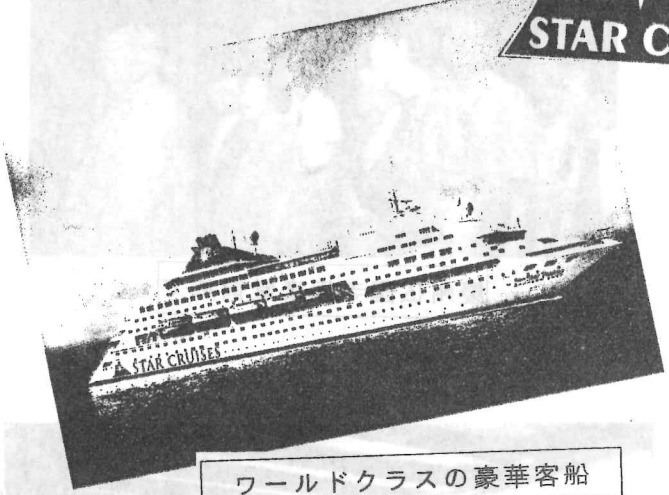
OPコースも幾つか用意されているが、希望者数により実施されるとは限らない。OPは参加自由、自分でコースを作って出掛けても良い。私らの釜山OPはほとんどの人が慶州観光を希望しバス3台で行くことになった。このツアー中で唯一の雨降りになった。メソの仏国寺見学は小雨であったが、午後は何とか快復して他の見学を済ますことができた。

三つめにこの船中生活はノチップ制であるのが良い。免税店があるのも特色といえるだろう。

4泊5日のツアーで荷物移動に手間いらず、三食付き・用事のない時は寝ていても良い旅。自由気ままな生活、日頃忙しい思いをしておられる女性群にとっては、それこそ天国であったのではないだろうか。

2002年ワールドカップサッカー時には、より豪華客船クルーズが横浜港起点に就航する。船旅がかくも楽しいものとは…。スター・クルーズの旅プランを再考したい。

— 豪華客船のサービス —



ワールドクラスの豪華客船

クルーズスケジュールとコース

(スーパースター・トーラス 乗船ガイドより)



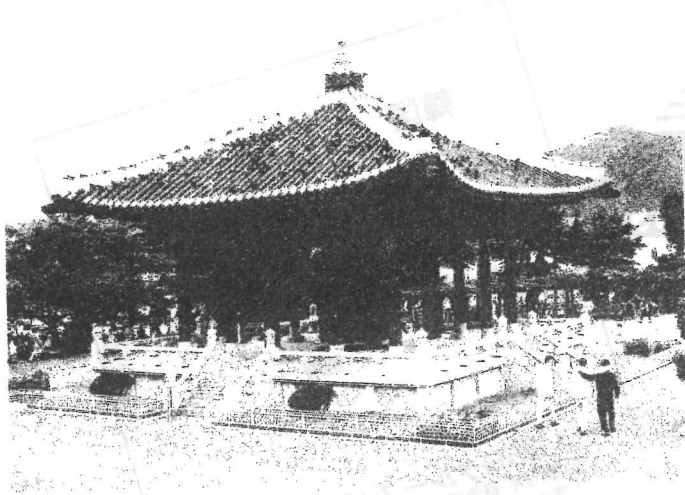
釜山国際埠頭での一行



船上でのひととき



釜山ロッテ百貨店にて



釜山竜頭山公園の鐘樓



…ボクも極楽へ行けるかなー…

慶州仏国寺極楽堂前にて

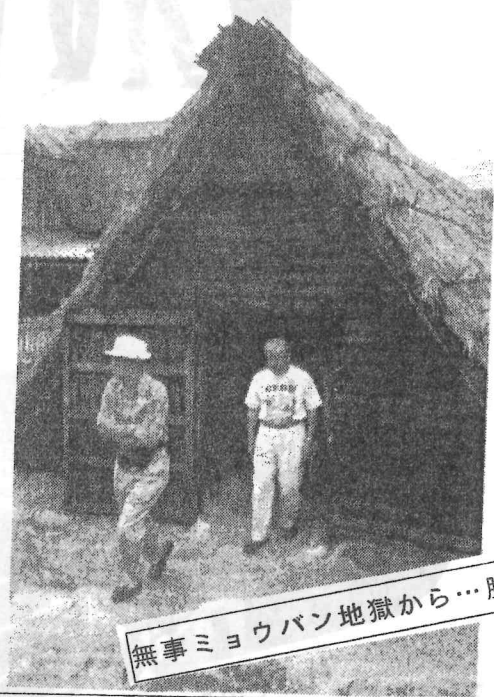
釜山のチャガルチ市場の鮮魚店風景



船内での和やかなひととき



釜山のチャガルチ市場での豚頭  
(お祝いにつかわれる)



無事ミョウバン地獄から…脱出

噴出ミョウバン蒸気からの結晶生成を見学  
(別府にて)

## スーパースター・トラス号

### …日韓クルーズを満喫して…!

塩田 義人（福祉1期）

グループ“わ”の中島代表から豪華客船による日韓クルーズご案内の文書が送られてきた時は本当にびっくりした。

それもその筈、100組、200名の配偶者同伴のご招待というではないか。

今まで“わ”から送られてきた文書の数々からは想像もできないものだ。ご招待してくださるスタークルーズ社も立派だが、その対象としてシルバーカレッジの“わ”が選ばれたというのも立派なものだ。ご好意をお受けし、又その好意を次の誰かにバトンタッチすればいいんだと一人合点して大勢の仲間と一緒に喜んで参加させていただいた。

ポートターミナルに待機していた25000トンの客船は実に豪華だった。

乗船手続は外国旅行の雰囲気早速に味わしてくれた。

船内の施設はいずれもユッタリとしたスペースをとり、割り当てられた客室も含めて想像以上に立派なものだった。

上級船員からボーイ、ウェイトレスに至るまで殆どが外国人で占められているのが余計に外航客船に乗ったという印象を深くし、愈々外国旅行のムードを高めた。

各種の催し物や心づくしの食事にも満足した。

最終日のカクテルパーティー、ディナーはクルーズのフィナーレを巧みに演出したものだ。

乗船客の大半がわがグループだったので、何処を見ても知った顔ぶればかりであったが、夫婦同伴のおかげで各々の配偶者と知り合うことができ、仲間の輪がいっぺんに倍に広がったとの思いを強くした。

寄港地の経験も貴重なものだった。ことに、釜山では韓国民衆のバイタリティーを目の当たりにして驚いたり、感動したりの連続だった。

韓国一の魚市場といわれる「チャガルチ市場」の広さと路上商売の雑然とした活気、そしてそれをも上回る国際市場の雑踏、人込み、この日が韓国の旧のお盆だということを感じてもその元気さは今の日本に比して考えさせられるものがあった。

勿論、日本も捨てたものではない、旅は人情にふれる機会に恵まれるものだが、上陸した博多ではバス停で道を尋ねた若い女性が丁寧に市バスに同乗してベイプレスまで送ってくれ、道中博多の話を色々聞かせてくれた。

又、別府では市内で一番古い外湯の竹瓦温泉を探して街を歩いていたところ親切な商店のご夫婦が竹瓦温泉の掲載された情報誌をプレゼントしてくれた。竹瓦温泉は明治12年に作られた唐破風造りの玄関をもつ、丁度道後温泉の「坊ちゃん会館」と似た造作の実にアンティークな浴場で明治時代に逆もどりしたような気分が入浴してきた。因みに入浴料は現代離れた大人80円であった。

クルーズの4泊5日はアツという間に過ぎてしまったが、この時間がグループ“わ”をひとまわり大きくしてくれたと思う。

機会を提供してくれた人、お世話をしてくれた人、一緒に楽しく過ごしてくれた人、二重にも三重にも人の善意を感じたこの時間は参加した“わ”のメンバーへ、これからの“わ”に対する認識と活動への協力の思いを深めるのに大いに役立ったと確信する。

最後にこの有意義な旅行を終始お世話くださった中島代表はじめ“わ”の役員の皆様にご心より厚くお礼申し上げ、楽しかったクルーズをいつまでも胸に刻んでおきたいと思う。

# スーパー・スター・トラスの

## …クルージングに参加して…!

児玉 守見子 (生環1期 児玉氏夫人)

このたびグループ“わ”の方々の日ごろのご活躍のお陰で、配偶者の私まで憧れの船旅にご招待いただき、感謝しております。

午後9時出港、船がゆっくりと港を離れ、神戸の美しい夜景がパノラマのように広がって、潮風が心地よくロマンチックな気分でした。船内では色々なアトラクションが夜遅くまであり、初めてで慣れないこともあって、どのように楽しんだらよいものかと、ダンスにトライしてみても何か気恥しく、早々に部屋に帰ってしまい、4泊も退屈せずに過ごせるか…?と少し気後れ気味でした。

2泊目からは楽しまなくてはつまらない…!と、いろいろなアクティビティーに参加することにしました。スタッフにダンスのお相手をしてもらったり、ビンゴゲームや宝くじに…アワヤ…と胸をときめかしたり、時間も歳も忘れて夜遅くまで楽しみました。クルーズのスタッフ達は、どの人も気持ちのよい笑顔で接してくれて、のんびりと心身ともにリフレッシュする感じで、これこそが船旅の良さと実感いたしました。少し体力は要るようです。寄港地は博多、釜山、別府で、各地ではフリーで、美味しいものを食べに行ったり、バスツアーに参加したり、温泉に行ったりと思い思いの楽しみ方をいたしました。

最後の夜、船長主催のディナーパーティーでは、皆様おしゃれをして、若やいで素敵でした。第二の人生の中で共に学んだ同窓生ということで、あちこちで話が盛り上がり、よい和ができていて、うらやましいぐらいでした。豊かな人生をエンジョイされている皆様に敬服です。私もカレッジにはいって、良い仲間作りをしたいものと、刺激を受けました。



操舵室にて



釜山太宗台にて

### ●お詫び

このたびの日韓クルージング特集号の発行に当たり、編集の過程において一部記事欠落のミスがあり、再編集のため発行日程が大変遅れましたこととお詫び申し上げます。

### 後記

★前号(12号)の編集後記でも申し上げましたが、日韓クルージング紀行は特集号としてお届けいたします。★紀行は9月1日出発組と9月8日出発組のそれぞれお2人から、いずれも大変に愉快な、そしてとても和やかな情景が彷彿する内容のご寄稿をいただきました。★今回のクルージングに参加された皆さんは、それぞれに沢山のよい思い出を持ち帰られたことでしょう。★衣替えの秋ともなれば、朝夕はめつきり凌ぎやすくなりました。気温の日較差が変動するこの季節、体調に十分ご留意ください。